

○ 本校の概要

【学校規模】生徒数312名(2、3学年3学級、1年4学級 計10学級) 教員20名
 【学校の特色】
 ユネスコスクールに加盟、今年度で27年目を迎える生徒会主催によるアルミ缶回収運動、1・2年生による修学旅行見送り隊
 生徒が毎日1ページ以上取り組む「自主学習ファイル(教科型)」による家庭学習の推進、4名の道徳授業推進教師による道徳教育の推進

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしやすい子どもへの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国語を使ってのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	2	4:生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」での肯定的な回答が85%以上。 3:生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」での肯定的な回答が60%以上。	4: 3:	生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」(回答者数294名)で肯定的な回答は、昨年度と比較して4.5ポイント減の79.8%であった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各種の学校行事が軒並み中止となった影響が出ていると考えられる。また、生活指導においても現状の校則に疑問を持つ生徒も増えてきている。今後は、生徒会活動を活性化させ、生徒の意見を尊重しながら校内のルールやマナーを再構築していくことや、生徒の心に感動を呼び起こすような行事の実施に取り組んでいく。	A	4	学校公開行事等が、すべて感染拡大防止のために中止となり、学校・生徒の様子をうかがい知ることができなかった。
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	2:生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」での肯定的な回答が60%未満。	2:				
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学年一実践」運動を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	2	1:生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」での肯定的な回答が40%未満。	1:				
		体験的な学習の成果をグループごとにまとめさせ、発表させることで、生徒に発表する力を身につけさせる	4:「発表力がついた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3						
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	4:生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が85%以上。	4:	生徒アンケート設問「学習への取組が積極的になった」(回答者数294名)での肯定的な回答は昨年度より5.1ポイント減の82.9%となった。本校では、教員の指導力向上のため、東京都や大田区の研修会に教員が参加したり、校内で授業力向上のための研修を行っている。また、授業ではICT機器を積極的に活用している。授業では、基礎・基本の定着と個に応じた指導、生徒の言語活動を積極的に取り入れることにより、生徒が興味・関心を高め主体的に取り組めるよう指導している。家庭学習の習慣が身に付き、自主的に学習することができるよう「自主学習ファイル」の取組を全校体制で継続して行っていく。	A	4	学校公開行事等が、すべて感染拡大防止のために中止となり、学校・生徒の様子をうかがい知ることができなかった。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2〜3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2	3:生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が60%以上。	3:				
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4	2:生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が60%未満。	2:				
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	1:生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が40%未満。	1:				
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を培っていきます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守るようとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	2	4:生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が85%以上。	4:	「学校の決まりを守って生活している」(回答者数294名)の肯定的な回答は、昨年度より1.8ポイント減って95.8%となった。本校では学校行事・学年行事に生徒が意欲的に取り組めるようにし、生徒が自己肯定感や自己決定力を高めている。全教育活動を通して、豊かな心を育むが、道徳の授業がもつ役割は大きい。本校では、今年度からの教科化を踏まえて、内容について自分の考えを深めるような授業を展開するとともに、道徳授業に重点をおいて研修を行っている。今後も研修を深め生徒が深く考え、行動できるよう教員の指導力を向上を図る。	A	4	学校公開行事等が、すべて感染拡大防止のために中止となり、学校・生徒の様子をうかがい知ることができなかった。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2〜3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3:生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が60%以上。	3:				
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)やHyperOUの結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2:生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が60%未満。	2:				
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が40%未満。	1:				
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	1	4:生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」で肯定的な回答が85%以上。	4:	「体育の授業や部活動など継続的な運動を通して4月の頃より体力が向上した」(回答者数291名)と回答した生徒は、昨年度より1.2ポイント減少し、7.9%となった。一校一取組として体育の授業でサーキットトレーニングを取り入れたりしてきたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため運動の機会が激減したことが影響していると考えられる。今後も引き続き運動する機会を増やし、身体活動量を増加させ、体力を向上させていく。	A	4	学校公開行事等が、すべて感染拡大防止のために中止となり、学校・生徒の様子をうかがい知ることができなかった。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	1	3:生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」で肯定的な回答が60%以上。	3:				
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」で肯定的な回答が40%未満。	1:				
		体育の授業等運動の機会を捉え、積極的に取り組むよう指導する。また、運動部活動の取組内容を充実させ、体力向上に取り組む。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3						
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価や生徒による授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2	4:生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」での肯定的な回答が85%以上。	4:	生徒アンケートの設問「先生は、わかりやすい授業を行っている」(回答者数293名)に対しては、肯定的な回答の各教科の平均が昨年度より3.7ポイント下がり86.9%となった。ICTの環境が整い、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全教員がICTの使用頻度が増え、活用している内容の幅も広がっているが、その成果がまだ現れていないと考えられる。今後はより効果的な学習コンテンツの開発を含めてより一層ICTの効果的な使い方を探っていく。	A	4	学校公開行事等が、すべて感染拡大防止のために中止となり、学校・生徒の様子をうかがい知ることができなかった。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教師が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2〜3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	1	3:生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」での肯定的な回答が60%以上。	3:				
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	1	2:生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」での肯定的な回答が60%未満。	2:				
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2〜3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	1:生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」での肯定的な回答が40%未満。	1:				
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2〜3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	2	4:保護者アンケートの該当する項目でAまたはBと肯定的に答えた保護者が85%以上	4:	保護者アンケート(回答者数253名)の結果、「学校が発行する印刷物(お知らせ・便り)等はわかりやすい」(93.4%、昨年比0.2ポイント減)。「子どもは学校生活に満足している」(89.4%、同2ポイント増)。「子どもは落ち着いて授業に取り組んでいる」(87.5%、同0.8ポイント減)になっている。保護者の学校に対する期待が大きいことを受け止めこれからも充実した教育活動を行っていく。	A	4	学校公開行事等が、すべて感染拡大防止のために中止となり、学校・生徒の様子をうかがい知ることができなかった。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	3:保護者アンケートの該当する項目でAまたはBと肯定的に答えた保護者が60%以上	3:				
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2〜3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	2:保護者アンケートの該当する項目でAまたはBと肯定的に答えた保護者が60%未満	2:				
		生徒会主催アルミ缶回収運動を感染防止対策に配慮しながら実施する。	4:年12回以上実施した。 3:年10回以上実施した。 2:年8回以上実施した。 1:年8回未満であった。	1	1:保護者アンケートの該当する項目でAまたはBと肯定的に答えた保護者が40%未満	1:				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。